

平成27年度テクノアカデミー郡山産業人材育成推進協議会内容

日 時 平成28年2月18日(木) 午後1時30分～午後3時00分

会 場 テクノアカデミー郡山101大講義室

出 席 者

および所属 日下俊一郎(林精器製造株式会社)

角田 稔(一般社団法人ふくしま医療機器産業推進機構)

尾股 定夫(サイバーダイン株式会社)

宗像 健雄(郡山商工会議所)

鈴木 寛(白河商工会議所)

小沢 喜仁(アカデミア・コンソーシアムふくしま)

松本 明倫(福島県立平工業高等学校)

狩野 幸(郡山公共職業安定所)

山内 政人(郡山市)

有賀 一徳(県中地方振興局)

阿部由之助(県南地方振興局)

喜古 克広(テクノアカデミー郡山)

議 題

- (1) 地域貢献プラン進捗状況について
- (2) 産業人材育成へ向けた今後の取り組みについて
- (3) その他

議 事 録

はじめに事務局よりすべての資料説明を行い、議題(1)(2)共通で意見・質問を頂いた。

会 長：

テクノアカデミー郡山の取組みについてご意見を頂きたい

委 員：

就職率100%は素晴らしい。入学充足率はテクノアカデミーの問題というよりは県全体の問題だと思う。また、テクノアカデミー郡山のHPはきれいで見やすく、必要な情報へのアクセスが良いが、今後は可能であればFacebookページを作り学生の実習やライフスタイルといった最新の情報を随時発信してはどうか。HPは自ら検索して情報を得なければならないが、高校の先生がフォロワーになれば情報がダイレクトに入ってくるし、周囲への拡散も期待できる。

委 員：

学生の就職から在職者訓練など幅広く活用させていただいており、テクノアカデミーの存在は大変ありがたい。テクノアカデミー出身の社員は中堅として活躍しているが、

伸び悩んでいる技術者も見うけられる。セミナーをうまく活用していきたいが、卒業後も母校と繋がりを持つことでブラッシュアップしていけるような形がとれるとありがたい。このような個別のフォローは大学や高校といった大きな組織では難しいが、テクノアカデミーが対応できるのであれば独自のアピールにもなるのではないか。

委員：

今年度から医療関連産業概論を実施しているようだが、学生からの反響はどうか？

事務局：

外部から講師を招聘し、広い視野で医療関連産業全体の説明だけでなく、学生に実物を触れさせながら、製品の開発の在り方といった実習も含まれおり学生にも好評であった。

今後も内容を精査しながら実施していきたい。

委員：

県外の医療機器メーカーから「多少医療のことを勉強された学生さんいませんか？」といった求人の問い合わせがよくあるため、このような取り組みを続けていただけると、紹介の幅も広がると思う。

3Dプリンタの活用について県内の中小企業で3Dプリンタの稼働率が悪いという話が広がっている。何か新しいアプリケーションを広げていかないと維持管理ができないため、医療関連での活用を求められている。

医師の手術トレーニングの材料に使いたいという需要があり、会津方面を中心に行っている。

3Dプリンタはこれまでの試作品を作るという使い方から、製品を作るという動きが出てきており、その辺りもサポートできると県内企業の採用意欲が高まるのではないかな。

会長：

病院との関係は具体的にどのように進めているのか？

委員：

病院の患者さんのデータをお借りして、3Dプリントしたものを返すというビジネスを進めている企業がいくつかある。

委員：

大学と企業の両方に身を置いて感じたこととして、企業は生身で社員一人一人の活躍が重要である。従業員の100分の1かもしれないが、役割としては100分の100である。

コストやコスト意識，企業内で何をやらなければいけないのかといった，ものづくりにおける心の部分を在校生に伝えるために，実社会を経験してきた卒業生や，企業人に社会人セミナーのような講演をやってもらってはどうか。

在職者訓練において，テクノアカデミーを卒業した学生が参加することはあるのか？

会長：

日下委員の話にもあったが，テクノセミナーを受講する卒業生は毎年いる。

委員：

ビジネススクールにて簿記や宅建といったコースを実施していたが，それに加え新年度から企業ニーズの高まりに応え、テクノアカデミーに協力していただき、3DCAD・3Dプリンタのコースを設定させてもらった。また、品質管理に関する需要も高いので、継続的にテクノセミナーと連携していきたい。

卒業生が地元企業の就職水準が高いことは引き続きお願いしたい。

新年度に学校が希望する企業を集め，説明・情報交換をする企画を進めているので，是非参加・協力していただきたい。

委員：

産業サポート白河の活用や企画に参加いただき感謝する。一昨年まで実施していた県南技塾でテクノアカデミーの先生方に協力いただいたことが今日に繋がって良かった。一昨年テクノアカデミー浜を視察した。良い設備であるが，入学者の確保，地元就職などいろいろと問題がありそうだった。県南地方に高等教育機関がないので，この機会に県南地方にテクノアカデミーの移転やサテライトなど，県南の産業人材の育成に取り組んでほしい。

事業概要より，県外からの入学者がない一方，県外就職者が13%を超えている（平成26年度）。地方創成が叫ばれていることもあり人材確保を強く認識している。様々な募集活動を行っていて負担が大きくなるかもしれないが，地元企業がどういった人材を求めているかを掘り下げた上での高校訪問を行ってはどうか。また，企業・高校間での情報も提供してもらう必要がある。5次までの募集を行うエネルギーを企業・高校・テクノアカデミーで連携に振り分け，地域に根差す人材を確保していただきたい。

会長：

高校，企業，関連団体との連携を積極的に進めていきたい。

委員：

学科別懇談会でメンタルも強くしてほしいとの意見があった。アカデミア・コンソーシアムでは「強い人材事業」を来年度まで実施しているので，学生を参加させてはど

うか。自分の学校や地域を離れ色々な人が集まった中（アウェイ感）で人を育てることも重要ではないかと考えている。

入学者の確保について、ものづくり系は危機的状況である。就職状況は良いがそこに至るまでの学生の入学希望とのミスマッチが生じており、3年離職率が大学でも問題になっており、卒業生がアドバイスをするキャリアサポーター制度などを取り入れて対応している。

テクノアカデミーのカリキュラムを作ってからかなり時間が経っており、大きな見直しを検討して良い時期だと思う。若者のニーズに合わせて変えていかなければ飽きられてしまう。

入学者を確保するためには奨学金制度の充実は重要であり、経済的に弱い家庭については、ものづくりの夢を実現させてあげるための社会的な支援ができると良いのではないか。

医療・ロボットなど新たな産業への対応もしているが、人の手当ても重要。内部だけでなく外部から非常勤講師を積極的に取り入れてメニューを増加させてはどうか。

テクノセミナーにおいても外部講師によるオーダーメイドコースを積極的に企画・調整、実施していくことが地域貢献に繋がると思う。

委員：

県内工業高校の進学先としてだけでなく、ものづくりコンテストへの審査員の派遣、会場の貸し出しなど大変お世話になっている。

工業高校の実態として、機械・建築・土木は志願者が多いが、電気・電子・情報はそれぞれの違いが分かりにくく、学習内容が難しいイメージがあるようで定員割れが続いている。

それぞれの高校で地域にPRしているが、校単独では限界があるため、県内の工業高校共通のPR資料を作成した。今年度はプロモーションビデオも準備している。

志願者を増やし中学生が工業高校へ、そして更に高い技術を習得するためにテクノアカデミーへ、といった流れを作っていきたい。

会長：

就職後のミスマッチについては本校での授業だけでなく、小・中・高校生に向けたものづくりの楽しさを教える活動を続けてフォローしていきたい。

カリキュラムについては企業のニーズに対応できるよう見直しを続けていきたい。奨学金も検討しているが、まだ実現できていない。

委員：

県の28年度予算の中にもものづくり系の大学を出て県内の製造業に就職すると奨学金の免除されるような制度ができたと思う。こういった制度を高校にアナウンスすると、ものづくり産業系の受検者数も変化するのではないか。また、この制度は大学だけで

なく、高校やテクノアカデミーも含めるべきだと思う。

委員：

来年度から県内の大学生が医療機器に関する研究活動支援をする制度がスタートする。大学院生については多少の研究費が県から支給され、公の場で発表をしてもらう。人材確保についての施策も今後活用していただけると良いのではないかと。

委員：

在職者訓練の定員を超える受講者を対応したことは素晴らしい。国が非正規労働者の正規化雇用にしていくためのキャンペーンを促進しており、在職者のキャリアアップ助成金を活用していただけるとありがたい。実施結果を見るとオーダーメイドの需要が高まっており、コースを担当する先生は大変かもしれないが、離職者訓練も含めて来年度も引き続き協力しながらPRしていきたい。

委員：

建築・板金・塗装・左官の職人を育成している郡山高等職業能力開発校で3Dプリンタを活用できないかといった話があった。先進技術は対応が難しいので、お互いに連携しながらよろしくお願ひしたい。

委員：

県南地方振興局では産業サポート白河を補助しながら活用した人材育成事業を行っているが、手の届かない所をテクノセミナーとして実施していただいている。この会議に先立ち産業サポート白河からも大変助かっている、引き続きお願ひしたいとのことであった。来年度以降も県から補助を出しながら色々な事業を行っていく。地元企業が求める人材育成のために全面的なご支援をお願ひしたい。

会長：

テクノアカデミーの存在意義を高めていくために、常に問題意識を持って業務を推進していきたい。また、入学して卒業して終わりではなく、卒業後における母校活用の形や、高校とも連携し入学前からテクノアカデミーと使ってもらえるような幅広い人材育成の取り組みについても考えていきたい。